會務報告

第28卷第3號 昭和17年3月

通常總會記事

昭和 17 年 2 月 16 日午後 5 時より東京市麴町區丸ノ内3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり。

出席者: 82 名

會長谷口三郎君座長席に着き開會を宣し下記議事に就き出席會員の承認を得たり。

1. 昭和 16 年度事業報告（本號會告參照）
2. 昭和 16 年度決算報告（本號會告參照）
3. 役員選擧の結果報告

投票人員	1114 名	
會長當選	1087 票	草間偉君
次點	7 票	吉田德次郎君
	3 票	鈴木雅次君
		以下略す
副會長當選	1085 票	鈴木雅次君
次點	2 票	高橋嘉一郎君
		以下略す
常議員當選（改選）	1063 票	福田武雄君
〃	1059 票	山下輝夫君
〃	1056 票	鈴木清一君
〃	1054 票	田中孝君
〃	1050 票	瀧澗貫烈君
〃	1050 票	當山道三君
〃	1049 票	小野美造君
〃	1049 票	信澤貞治君
〃	1044 票	岡崎三吉君
〃	1041 票	松村孫治君
〃	1033 票	山倉嘉一郎君
〃	1028 票	大槻勝雄君
次點	14 票	齋藤四郎君
	13 票	內山實君
	11 票	水谷鏘君
	8 票	釘宮磐君
	6 票	三輪周藏君
	5 票	內村三郎君
		以下略す
常議員當選（補缺）	1052 票	齋藤四郎君
〃	1033 票	內山實君
次點	5 票	山倉嘉一郎君
		以下略す

4. 特定期間中入會金免除の件を上程し全會一致次の如く可決確定せり。

「本會は昭和 17 年 1 月 1 日より昭和 17 年 2 月末日までに新に入會を承認せられたる正會員，准會員，學生會員に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得」

以上を以て議事を了し，引續き下記優秀論文の著者に對し昭和 16 年土木賞牌の贈呈を行ふ。

土木學會誌第 27 卷第 11 號所載

「玉石交り砂礫層の河川に設けたる取水堰基礎止水壁潛函工事の一例」　正會員 內海清溫君

次で谷口會長の講演（別項）あり午後 7 時閉會せり。

會長講演終了後有志晩餐會を開催し出席者 68 名にして午後 8 時 20 分散會せり（別項記事參照）。

役員會

第 24 回理事會（昭. 17. 2. 9.）

出席者: 谷口會長，吉田副會長，青木理事外 4 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名

報告

1. 昭和 17 年度役員選擧の結果別紙（省略）
2. 北海道支部大會議事
3. 北海道支部役員會議事
4. 西部支部役員會議事
5. 關西支部役員異動別紙（省略）
6. 東北支部役員異動別紙（省略）

議事

1. 關西支部長改選の結果佐藤利恭君當選依囑
2. 東北支部長改選の結果四田敏夫君再選依囑
3. 中國四國支部長佐土原勳君の後任選擧の結果大島六七男君當選依囑
4. 西部支部昭和 17 年度豫算を別紙（省略）の通り承認
5. 西部支部昭和 16 年度決算を別紙（省略）の通り承認
6. 華北支部昭和 17 年度の特別交附金として 1000 圓を交附

7. 東部軍經理部へ土木學會誌を寄贈

8. 日本出版文化協會申込に依る本會職員の團體生命保險は加入することゝせり

9. 土木學會誌表紙裏面の英文印刷を第 28 卷第 3 號より廢止

第 13 回常議員會 (昭. 17. 1. 26.)

出席者: 谷口會長, 黑田副會長, 青木常議員外 10 名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 華北支部第 2 回役員會議事

2. 華北支部役員異動

3. 華北支部長任期延長

4. 對爆調査委員會委員長更迭

5. 昭和 16 年度土木賞牌贈呈優秀論文の題目及著者

玉石交り砂礫層の河川に設けたる取水堰基礎止水壁潛函工事の一例　正會員. 内海清溫君

議 事

1. 對爆調査委員會委員に次の諸君を依囑

川口克久君, 渡邊和夫君, 森田紀元君, 牧野邦雄君

2. コンクリート調査委員會委員に次の諸君を依囑

委員 磯崎傳作君

特別委員 小川敬次郎君, 篠原謹爾君

3. 全日本科學技術團體聯合會本會代表宮本委員の後任として菊池明君を依囑

4. 西部支部內規第 1 條中「商議員 14 名を 18 名に」變更の件を承認

5. 華北支部昭和 17 年度豫算別紙 (省略) の通り承認

6. 朝鮮支部昭和 16, 17 年度豫算別紙 (省略) の通り承認

7. 中部支部昭和 17 年度豫算別紙 (省略) の通り承認

8. 昭和 16 年度事業報告並に決算報告を別紙 (省略) の通り承認

9. 關西支部昭和 16 年度決算報告を別紙 (省略) の通り承認

10. 東北支部昭和 16 年度決算報告を別紙 (省略) の通り承認

11. 北海道支部昭和 16 年度決算報告を別紙 (省略) の通り承認

12. 土木建築工事用機械改良に關する委員會を設置することゝし, 具體案の作成を青木理事に一任

13. 役員選擧開票日を 2 月 6 日 (金曜日) とし立會役員に次の諸君選定

副會長 黑田武定君

常議員 青木楠男君, 堀越一三君

酒井勇君, 大石勇君

14. 昭和 17 年度支部交附金を別紙 (省略) の通り決定

15. 入退會を別記の通り承認

16. 東京帝國大學第 2 工學部土木工學科及建築學科へ土木學會誌 1 月號より寄贈

17. 北海道支部長改選の結果齋藤靜脩君當選依囑。

臨時常議員會 (昭 17. 2. 6.)

出席者: 黑田副會長, 青木, 大石, 酒井, 堀越各常議員, 中村書記長外

昭和 17 年 1 月 26 日開催の常議員會に於て選任せられたる上記役員立會の下に昭和 17 年度役員選擧投票の開票を執行し, 其の結果次の如し。

投票人員	1114 名	
會長當選	1087 票	草間偉君
次點	7 票	吉田德次郎君
	3 票	鈴木雅次君
		以下略す
副會長當選	1085 票	鈴木雅次君
次點	2 票	高橋嘉一郎君
		以下略す
常議員當選 (改選)	1063 票	福田武雄君
〃	1059 票	山下輝夫君
〃	1056 票	鈴木清一君
〃	1054 票	田中孝君
〃	1050 票	瀧淵實烈君
〃	1050 票	當山道三君
〃	1049 票	小野美造君
〃	1049 票	信澤貞治君
〃	1044 票	岡崎三吉君
〃	1041 票	松村孫治君
〃	1033 票	山倉嘉一郎君
〃	1028 票	大槻勝雄君
次點	14 票	齋藤四郎君
	13 票	內山實君
	11 票	水谷鏘君
	8 票	釘宮磐君
	6 票	三輪周藏君

5 票　内村三郎君
以下略す
常議員當選（補缺）1052 票　齋藤四郎君
〃　1033 票　内山貫君
次點　5 票　山倉嘉一郎君
以下略す

總務部記事

土木學會文化映畫委員會（昭. 17. 1. 17.）

出席者：青木委員長，金子委員外 5 名，田村十字屋映畫部員外 1 名，德丸囑託，小野寺庶務主任

1. 本委員會指導の文化映畫「道路」の試寫會に全員出席

2. 文化映畫「道路」に對し各委員より意見を述べ適當なる修正を希望

第 12 回對爆調査委員會（昭. 17. 1. 29.）

出席者：釘宮委員長，川口委員外 8 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 河上，畑兩委員提出の資料 2-1 軍防空（ゲラ刷）に對し逐條審議を行ひ，其他資料に就ては次回引續き審議

第 13 回對爆調査委員會（昭. 17. 2. 5.）

出席者：釘宮委員長，川口委員外 9 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 資料 2-4-1 物件の可視度，2-4-2 僞裝の程度（ゲラ刷）に對する逐上審議を行ひ之を 3 號會誌に登載することゝし，其他資料に就いては次回引續き審議

2. 次回までに分擔資料を蒐集持寄ることゝせり

第 14 回對爆調査委員會（昭. 17. 2. 12.）

出席者：青木委員外 9 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 資料 2-4-3 僞裝方法及 2-4-5 僞裝材料（ゲラ刷）に對する逐上審議を行ふ

2. 河上委員提出の 2-4-4 水面僞裝の資料はゲラ刷として次回審議

3. 谷本勉之助君抄錄の資料（水面僞裝）に對する謝禮を決定

編輯部記事

第 2 回會誌編輯委員會（昭. 17. 2. 4.）

出席者：廣瀨委員長，淺井委員外 4 名，瀨尾編輯主任外 4 名

1. 第 28 卷第 1 號原稿謝禮を決定

2. 第 28 卷第 4 號登載原稿を次の如く決定

論說報告：重力堰堤內部應力計算法の一考察（正，村幸雄），河相論　主として河相と河川工法との關聯性に就ての研究（正，安藝皎一）

討　議：軌條に作用する横壓力（正，星野陽一著者，千秋邦夫）

彙　報：ドイツに於ける堰堤に關する發明（4）（正，吉藤幸朔）

抄　錄：ピット河橋の架設に就て，ドニエプル堰堤の爆破，テント張りの堰堤施工，堰堤の進歩，世界最大の自航式の泥艙附浚渫船，海岸の浸蝕防止法，吊橋の補强，海中の杭の蟲害豫防法，アルバート運河，ポルトランドセメント水和熱發生に及ぼす各種混和劑の影響

3. 優秀論文選定經過報告の件は廣瀨委員長より本年度優秀論文として正會員內海清溫氏の"玉石交り砂礫層の河川に設けたる取水堰基礎止水壁潛函工事の一例"1 編を選定の旨經過報告あり

4. 抄錄に關する件は昨年 10 月より外國雜誌未着にして從來の如く抄錄を繼續する事が事實上不可能となりたるを以て抄錄を中止するか，或は繼續するとせば如何にして實行するかを協議し結局，會誌には抄錄欄を置き，機械，電氣，建築各學會誌等の論說の內土木技術と密接な關係を持つ論說を抄錄する事に決定

5. 土木學會誌登載の論說の英文表題廢止の件は理事會に諮る事に決定（理事會にて可決）

關西支部記事

役員異動　退任支部長　橋本敬之君

退任商議員　貝原榮君，小林勇君，下間仲都君，辻井富之助君，原口忠次郎君，三島卯四郎君，柳田癸巳夫君，山本與一郎君，幹事　稻浦鹿藏君，大森義文君

新任支部長　佐藤利恭君

新任商議員　伊藤百世君，石原藤次郎君，野々口市太郎君，羽賀正義君，前田藤介君，松浦不二夫君，松

尾寛一君，森田虎起君，幹事 青木信夫君，古谷寅雄君

東北支部記事

役員異動 退任商議員 庄司陸太郎君，清野暢三君，岡崎信雄君，西岡宏治君， 幹事 近藤信一君

再任支部長 西田敏夫君

再任商議員 大島太郎君，加藤平吉君，龍田直三君，飯島馨之助君，叶 磯君，結城朝恭君，（補缺）椋本修造君，山下清吉君，幹事 庄司陸太郎君，清野暢三君

北海道支部記事

第 17 回役員會 （昭. 17. 1. 6.）

出席者： 小野支部長，小出商議員外 5 名，大坪幹事長，板倉幹事外 2 名，吉町，神保兩前支部長，岡本主事

議 事

1. 昭和 17 年度大會開催の件
2. 次期支部長候補者推薦の件

北海道支部總會

會 場： 札幌商工會議所

議 事： 事業報告並決算報告
支部長選擧

講 演： 漂砂に關する 2,3 の問題に就て 准會員 森田義育君
鑛山土木施設に就て 正會員 牧之瀬秀清君
寒地の凍害研究 正會員 工博 小野諒兄君

映 畫： 地下鐵道の構築方法 1 卷
防 雪 陣 1 卷

出席者： 125 名

懇親會： 札幌グランドホテル，出席者 33 名

役員異動 退任商議員 齋藤靜脩君，應部屋福平君，小出襲次郎君， 退任幹事長 大坪喜久太郎君

新任商議員 千葉菊太郎君，高田善藏君，重森幹之助君，大坪喜久太郎君

新任幹事長 小川讓二君 幹事 横道英雄君

西部支部記事

第 1 回役員會 （昭. 17. 1. 17.）

出席者： 三瀬前支部長， 田中常議員外 5 名，松尾前幹事長，芥川幹事長，森幹事外 3 名

議 事

1. 事業報告並豫算の件 2. 退任役員記念品贈呈の件 3. 幹事依囑の件 4. 昭和 17 年度事業の件

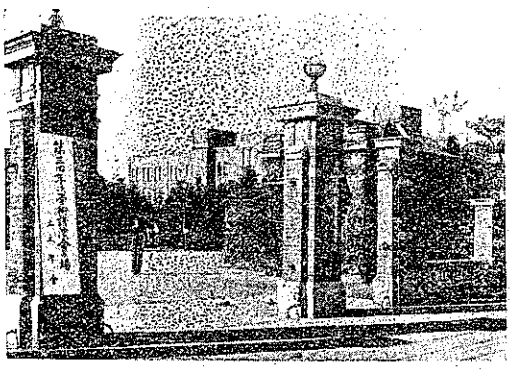
第 3 回年次學術講演會記事

1. **準備概況** 先年來懸案となれる年次學術講演會は第 3 回を福岡市に於て開催の事に決定せられ，西部支部に於ては昭和 16 年度新役員の交替と共に直に各般の準備に着手した。即ち昭和 16 年 1 月 18 日の第 1 回役員會に於て昭和 16 年秋 10 月 31 日と 11 月 1 日との兩日を講演日に當て，其他之に伴ふ視察見學等の諸計劃の大綱を決定し，之を土木學會誌等 27 卷第 2 號に講演論文募集と共に掲載豫告した。

次に期日の切迫に伴ひ會員一同の注意を喚起し且講演題目提出の督促の意味にて 4 月號に重ねて勸誘の通告を掲載した。併し時局の關係上講演申込數は少數ならんと豫想し居たるに事實は之に反し期日には 90 名を超過するの多きに達した。是れ全く關係各方面の御盡力と會員諸君の御奮發に由るものであつて委員一同を甚しく感激せしめた。茲に於て申込を締切り講演會場，部會及び講演者の順序等を決定し講演プログラムを編成した。

然るに其の後國際狀勢の推移は豫斷を許さざるに至り，支部に於ける萬般の準備は進捗せしめたるも講演會開催の如何は一應之を保留し以て狀勢の移變を注視することゝして萬遺憾なきを期した。其の異常なる緊張を見たる 7,8 月を過ぎて 9 月半となり，當時の諸狀勢この儘に推移するとせば學會の開催も可能ならんとの見透しを得て意を決し，土木學會誌第 9 號に本講

圖-A. 九州帝國大學工學部



演會開催の旨を報告し，併せて講演及見學プログラム，講演目次及び各見學旅行の日程等其の實行案を掲載すると共に爲念全會員に案內狀を送付した。

斯くして最後の開催發表は出席申込締切 10 月 5 日の約 1 週前のことゝて時日に餘裕僅少なりし爲か期日迄に出席を申越された會員は僅かなりしも，締切後に至り內地各地は勿論，遠く朝鮮，滿洲，北支及び臺灣等より續々と參加申込あり，10 月 20 日には 400 名を超ゆるの多數に及んだ。依つて支部に於ては其の翌 21 日第 4 回目の役員會を開催出席總數 450 の見當を以て準備萬端を整へ只開會を待つばかりとなつた。

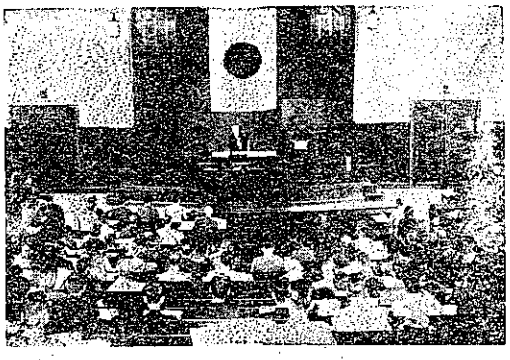
是等の準備事務進行上九州帝國大學土木工學教室，西部地域に於ける內務，鐵道兩省關係，各縣，關係諸會社及び福岡市等の會員を以て委員會を組織し，支部長より次の如き委員を依囑した。

圖-B. 九大工學部本館前の受付

會　　長　谷口三郎
講演委員長　三瀨幸三郎
講演委員　安藏善之輔　稻田　隆　大野　博
金森誠之　君島八郎　久野重一郎
小早川貞三　鮫島　茂　坂本一平
田中吉郎　田中　勤　出島一宏
德弘泰美　德田文作　西田　精
星野茂樹　松尾守治　○水野高明
山口十一郎　山本　格　山田正隆
吉田彌七
見學委員長　山口十一郎
見學委員　○赤岩勝美　江崎善愛　加納儉二
河合　清　木村儀四郎　菊地英彥
古賀久六　佐々木　毓　志道鈺造
○四十萬小祐　田寺元治　田中熊彥
寺田　甫　平野重市　○前田一三
山本廣一　八尋清彥　綿貫保一
應崎文雄　中尾光信
接待委員長　松本一平
接待委員　河村眞治　佐藤長太郎　○村上　正
四十萬小祐　篠原謹爾　關谷清助
○豐田哲夫　長久保信夫　本田一郎
松尾守治　三原　久　森　四郎
山口十一郎　湯池茂樹
庶務委員長　松尾守治
庶務委員　赤岩勝美　○東　壽　金津尙一
四十萬小祐　羽田　巖　牧野邦雄
水野高明　森　賢
○印　幹事

2. 講演會概況　學術講演會は豫定通り第 1 日 10 月 31 日午前 8 時半九州帝國大學工學部大講堂に於ける開會式に始まり，第 2 日 11 月 1 日正午に終つた。兩日共に快晴に惠まれて好都合であつた，殊に第 1 日は錦秋の空高く晴れて心地良き日本晴れ申分なき絕好の大會日和，定刻前より參會者陸續と押寄せ，受付係は印刷物及び記念品の配布に多忙を極めた。豫想出席者 450 を遙に凌駕し約 500 名の多數に及んだ。時局の關係上參加取消も相當數に登つたのであるが，當日飛入申込の會員も亦 150 名の多きに達し結局出席總數 485 名の參會を得た次第である。この超非常時下に於て斯くも盛大なる大會を開催するを得たことは御同慶の至りであつた。

圖-C. 開會式（第 3 會場）

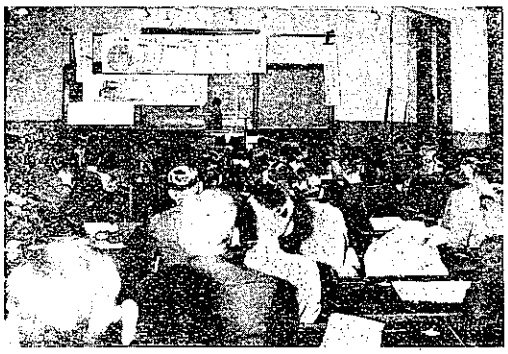


開會式は先づ國民儀禮を終つて西部支部幹事長松尾守治氏開會を宣し，次いで西部支部長三瀨幸三郎氏開會の辭を述べたる後，

會長の講演を理事富永正義氏代讀，午前 9 時この記念すべき大會の開會式を終了した。小憩の後愈々三會

場に分れて各部會が開始されたのである。

圖-D. 講演會場（第2會場）



開會の辭

講演委員長 正會員 工學博士 三瀬幸三郎

本日この爽快なる秋晴れの好き日に茲に會員諸君多數の御參集を得まして此の盛大なる土木學會第3回年次學術講演會を開催することが出來ますることは，當西部支部と致しまして誠に欣幸とする所であり，會員諸君と共に御同慶に堪へない次第であります。

實は今夏以來の緊迫せる臨戰態勢下におきましては本會開催も如何かと一時懸念されましたので，最後の御勸誘も遲れて9月末に發送された樣な次第であります。それにも拘らず多數の熱心なる會員諸君の御參加を得，亦講演者の數の如きは從來の年次學會に比して更に增加して居りまして締切後の申込に對しては講演會場及び時間の都合上止むなく御斷りせねばならなかつた樣な次第であります。

前例に由りまして講演概要の前刷を作成する豫定にして居りました處，昨今の紙の配給，印刷の統制狀態では實現困難となつて參りましたので，原稿をお屆け頂いた方も多數あつたのでありますが，之れ亦致し方なく割愛した樣な次第であります。この點不惡御寬容を願ひます。

今回會員各位が實地の土木事業に就て，又基礎的學理の研究に就て夫々精進努力せられたる蘊蓄を此の講演會に於て御發表になるのでありますから，時間をたつぷり差上げたいのでありますが，大會のプログラム進行上遺憾ながら極くきりつめた僅かの時間しか與へられて居ないのであります。此の點も不惡御諒承を願ひます。お手許に差し上げました次第書にあります通り，3會場に於て同時に平行して講演を進めることになつて居りますから，何卒夫々御關係の深い問題について適宜御清聽をお願ひ致します。

先のプログラムにはありませんでしたが鐵道省，內務省及び日本セメント同業會の御厚意に由りまして明日午後1時30分より航空寫眞測量，利根川河口改修模型實驗及びボーダーダム工事の3映畫を此の大講堂に於て上映致しますから隨意御參會を願ひます。

講演會終了後4班に分れて各地の土木事業を視察される事になつて居りますが，九州には皇祖發祥地日向の聖蹟を始め，各地に名所舊蹟多く，且雲仙，阿蘇，霧島の國立公園は夫々雄大秀麗を誇り，昨今錦秋を裝ふて諸君の御來遊をお待ちして居ります。尙此の機會に是非御視察を願はねばならないものに世紀の大土木事業である關門の鐵道及び國道の兩隧道工事があります。

又當福岡は一葦帶水のかなたに大陸を望み，東亞に於ける海陸空の連絡基地，その要衝に當つて居ります。博多灣の築港，雁の巢飛行場及び內鮮鐵道連絡豫定地等は市內外の各所舊蹟と共に明日午後御視察を願ふことになつて居ります。

今や聖戰第5年を迎へ忠勇なる皇軍將兵勇士は大東亞の新秩序建設の爲に身命を君國に捧げ大陸の各地に勇戰奮鬪を續けて居られるのであります。而して是等勇士の尊き血潮を以て平定せられたる各地には，直ぐ樣夫々の建設工作が進められてゐるのであります。その建設の第一線に進むべきものは申すまでもなく土木技術者であります。既に本會員の多數が北支に中支に將た又南方に進出せられ各方面に亘り危險を侵して日夜興亞建設の大事業に活躍盡瘁せられてゐるのであります。

彼を思ひ是を考へる時銃後にある吾々は感謝感激せざるを得ないのであります。各自の職域に於て眞劍に最善の努力を拂ひ以て土木報國の誠を效し，聖業完遂に御奉公せねばならないと痛感する次第であります。

近時土木工學の關する處其の範圍益々擴大せられ，現下の臨戰態勢下に於ては Civil Engineering のみならず，更に進んで Military Engineering にも多分に關與することになつて參つたのであります。其の機構も著しく有機的となり既に國土局，防空局等の設けさへ出來た樣な次第であります。殊に東亞大陸に於ける今後の活躍舞臺を思ふ時，吾々土木技術者の使命は重且大であります。會員諸君其の重責に鑑み心身を練磨し技術報國に邁進し以て事變完遂と國運の進展とに寄與せられんことを切望して止まない次第であります。

尙本大會開催に際しまして福岡市をはじめ當市に於ける關係諸會社より格別の御援助を蒙りまして本會を一層盛大ならしめて頂いた其の御芳志に對し會員一同

を代表して茲に深謝の意を表する次第であります。

以上所懷の一端を述べて開會の辭と致します。

開會の辭に引續き別記の如く各會場に於て講演が行はれた。

圖-B. 餘　興（懇親會場）

3. 講演プログラム（省略）

講演會は第 1 日即ち 10 月 31 日午前午後，第 2 日 11 月 1 日午前の 2 日に亙つて催され，各部會共熱心なる聽講者を以て滿員の盛況であつた。各部門夫々蘊蓄を傾けての講演に會員一同裨益啓發さるゝ處多く且臨戰態勢下の年次學會として土木報國の覺悟を更に新にし，感銘深き有意義なる大會を無事終了し得たことは幸甚の至りであつた。

4. 懇親會概況　第 1 日の講演會終了後一同は美しき暮色漸く迫る頃那珂河畔博多商工會議所の懇親會場に再び集合す，參會者 170 名の多數に及び土木學會懇親會としては稀に見る盛大なる懇親會を開催し得たことは幸甚の至りであつた。

開會前控室に於て會員同志久濶を敍し親睦を新にし打寛いで歡談に過すこと時餘にして午後 6 時半開會した。開宴に當り三瀬西部支部長開會の挨拶を述べ，來賓代表富永理事の謝辭あつて宴に移つた。

三瀬支部長開會の挨拶

開宴に先立ちまして御挨拶を申上げます，今回當福岡の地におきまして第 3 回年次講演會開催の機會に會員相互の親睦を計る爲懇親會を催しました處，多數の會員各位が御賛同下さいまして此の盛大なる懇親會を開くことが出來ました事は誠に欣快に堪へない次第でありまして主催者側の西部支部を代表して厚く御禮を申上げます。

西部支部と致しましては年次學會を計畫致しましてより今年は丁度 3 年目に當るのであります。一昨年開催の準備を進めて居りました處，後に 25 周年記念講演會が催されことになりまして延期となり，昨年は工學大會の爲復延期，而して今年も時局の爲或は中止となるのではないかと案じて居たのでありますが，現狀のまゝにて推移するとすれば開催差支へなからんと腹をきめてやつと 3 年目に實現の運びと相成つた樣な次第であります。

此の度の大會に於ては時局柄殊の外御繁忙の處を會員諸君多數御參加を得，極めて盛會裡に第 1 日の日程を無事終了致すことが出來まして誠に御同慶に堪へない次第であります。是れ偏に本會委員各位の御高配に由ることゝ深く感謝して居る次第で御座います，殊に當支部の幹事諸君には其の計畫の始めより開會の準備萬端に至るまで並々ならぬお骨折を頂いたのであります，その御盡力に對し茲に厚く御禮を申上げます。

現下の非常時に際し御多用の處を態々御參集に相成つた方々丈に本講演會は極めて熱意ある充實したものであり大に意義深きものがあると信じます。論文數も今迄にない多數で 90 を越へ，而も各方面に亘り何れも有益なる御發表で會員一同裨益し啓發される處多く，此の點講演者各位に對しこの席上に於て深謝の意を表する次第でけります。

此の度の大會に際し特に御援助を賜つた福岡市，東邦電力，九州水力，九州送電，九州鐵道，福博電車及び博多灣鐵道の諸會社に對し會員一同を代表して厚く御禮を申上げると同時に拍手を以て感謝の意を表したいと存じます，皆樣の御賛同を願ひます（一同拍手）。

今夕御招待申上げました來賓各位には御多忙の處を態々御臨席を辱ふ致しまして誠に光榮に存じます。時局柄とは申せ何のお構ひも出來ませず粗酒粗肴では御座いますが御ゆつくりと御歡談の程を御願ひ致します。

御承知の通り何事も統制下にある今日懇親會の如きも中々容易のことでなかつたのでありますが接待委員一同の格別の御努力に依りまして本日の準備がやつと出來た樣な次第であります，從つて何かにつけ不行屆勝ちの事もあるかと存じますが基の邊は何卒平に御寛容あつて御緩りと御歡談の上懇親の實を擧げられん事を切望して止まない次第であります。

以上簡單では御座いますが之を以て開會の御挨拶と致します。

デザートコースに入るや松尾幹事長の指名に依りテーブルスピーチを開始した。先づ君島博士の感激に滿ちたる所懷を述べられたる後會員一同の健康を祝して

乾杯，次いで中村光四郎氏（東京），鷹部屋福平氏（札幌），花井久太郎氏（名古屋），高橋逸夫氏（京都），及び坂本一平氏（福岡）の諸氏交々立つて所感を述べられた。

最後に支部長より餘興の奇術師藤瀬天洋氏（實は門鐵職員）の紹介あつて手品拾數番を觀賞した。其の曲藝全く玄人以上にて驚天の妙技に一同感歎，頻りに拍手喝采を送つた。斯くして和氣靄々たる中に充分の歡を盡し午後 8 時半盛會裡に解散した。

5 映畫會概況 第 2 日午後大講堂に開催された映畫會は會員の外に工學部教職員並に學生の參加もあつて非常なる盛會であつた。映畫は何れも學術的にも亦實際的にも貴重にして有益而も趣味豐かなるもの，一同滿悅であつたことを記して，映畫を提供して頂いた鐵道省，內務省及び日本セメント同業會の御厚意に對し玆に深謝の意を表する次第ある。

6. 見學旅行概況 第 2 日講演終了後出席者中の希望者は 2 班に分れ福岡市附近の見學に移つた。第 1 班は參加者 100 名內務省汽艇 2 隻に分乘，博多灣を周遊して內務省博多港修築所員の案內により大東亞共榮圈の基地たる大博多港修築の一端を視察した。第 2 班は自由參拜として參々五々筥崎宮，香椎宮及び太宰府神社に參拜大博多の持つ歷史的意義を明らかにした。

第 3 日目 11 月 2 日は各地見學旅行である。豫定の通り 4 班に分れて出發有意義裡に第 4 日目 11 月 3 日豫定の通り無事終了した。

本講演大會開始より見學旅行終了まで引續き爽快なる晴天に惠まれ總ての日程を好都合に完了し得たことは幸であつた。

7. 結び 以上を以て第 3 回年次學術講演會は時局下自肅の中にも終始盛況裡に土木報國の赤誠を盛つて豪華プログラムを全く終了した。

國際情勢の推移全く豫斷を許さず開催さえも危ぶまれた本大會が特に外地會員多數の出席を得て本大會開催の趣旨を全ふし得た事は偏へに地元關係各位の多大なる御盡力と會員諸賢の熱心なる御協力によるものであつて玆に厚く感謝する次第である。

華北支部記事

第 2 回評議員會 （昭. 16. 12. 15.）

出席者： 平井顧問，三浦支部長，郡副支部長，佐藤（忠）評議員外 7 名，村上囑託外 1 名

議 事

1. 昭和 17 年度豫算の件
2. 北京市及其の附近の陸上交通機關整備並に調査の方策に關する委員會設置の件
3. 役員任期に關する件
4. 土木工事の設計又は工事實施狀況資料に關する件
5. 其の他

中國四國支部記事

幹事會 （昭. 17. 1. 17.）

出席者： 大島幹事長，橋本幹事外 2 名

協議事項

1 役員會開催の件。2. 支部長選擧の件。
3. 縣部會經費の件。4. 昭和 16 年度決算の件。
5. 昭和 17 年度豫算の件 6. 昭和 17 年度事業の件
7. 新會員勸誘の件。

役員異動

退任支部長 佐土原勳君
幹事長 大島六七男君
商議員 岡田信次君，金澤節君
幹事 遠藤忠夫君

新任支部長 大島六七男君
商議員 西岡宏治君，小野木次郎君
幹事 桑原竹二君

日本工學會記事

日本工學會第 11 回評議員會 （昭. 17. 1. 22.）

議 事

1. 昭和 17 年度日本工學會收支豫算の件

通常總會晩餐會

通常總會の終了に引續いて恒例の有志晩餐會を鐵道協會の大食堂に於て開催，出席者は新舊役員を始め一般會員有志 68 名であつた。會は和氣靄々談笑裡に進行し，先づ留任の黒田副會長が立たれ，土木學會の總會がシンガポール島陥落の第一日に一致した事は本會の益〻隆昇を意味するものであり，大東亞の建設と土木とは重要なる關聯があるから本會々員も大いに努力すべきだと前提され，今回退任される谷口會長，吉田副會長を始め役員の方々の絶大なる御盡力に對し深謝する旨述べられ，又新任されました草間新會長，鈴木副會長其の外新任及び留任の役員の方々が新會長を中心として奮勵されん事を切望する旨述べられて着席。續いて谷口前會長は退任役員を代表しての挨拶と，シンガポール島陥落と同時に新なる段階に入りたる今日，一致協力に依り土木學會の益〻昂揚されん事祈る旨述べらる。次に草間新會長が立たれ，新任役員の方々を代表して土木學會のために最善を盡すの決意を披瀝され，又廣大なる大東亞の建設に對する土木の重要性及び土木技術者の心構へを述べらる。次に昭和 16 年度土木賞受賞者内海清溫氏が立たれ，今回の受賞に關する謙遜な御挨拶があり，又土木學會々員が昭和 8 年より急激に直線的に增加し現在では會員數 11 000 名を越える程度になつた事に關し，昭和 8 年には土木學會振興委員會が出來て土木學會の振興を計つた旨，當時評議員であり委員であつた同氏より懷舊談あり，續いて全日本科學技術聯合會に關係してをられる井上隆根博士の技術院創設に關する經過及び之に對する本會々員故宮本博士の努力を讃へらる。次に田中豐博士が立たれ，今回各方面の大家が軍政顧問として南方へ派遣されたが，自分が任命されたならば如何なる事をなすべきかと考へたと前提され結局日本でつくられる最高の酒を持つて行き宴會を開く旨諧謔的に話された。次に技術教育精神教育の刷新と云つても先づ第一に國民教育を樹て直さなければならぬ。それには國民學校に關する考へ方を直さなければならぬ。國民學校を單なる義務教育を施す所と考へず，眞の國民を教育する處であると考へ，國民學校の先生を父兄及び生徒が眞に尊敬し，先生は自尊心と見識とを以て臨まねばならぬと結び着席。最後に瀧山與氏が立たれ，大東亞戰爭勃發以來日本の勢力範圍が擴大されたので 2601 年より生れ變つた氣持で，これまでの計畫も單に豫算があるから實施すると云ふのではなしに，神武天皇御創業時代の精神に歸へつて再出發しなければならぬ旨述べられた。斯くして晩餐會は盛會裡に午後 8 時 20 分散會した。

出　席　者（アイウエオ順）

阿曾沼　均君	青木楠男君	青山　士君
青山　清君	青山吟三郎君	新井榮吉君
井上隆根君	池邊稻生君	稻葉權兵衛君
岩崎瑩吉君	上野有芳君	内海清溫君
内山　實君	江澤遙一君	遠藤藤吉君
小野美遙君	大河戸宗治君	大竹邦平君
大槻勝雄君	岡崎文吉君	柿　崎　市君
金子源一郎君	樺島正義君	河原直文君
萱野忠五郎君	北澤惇夫君	草間　偉君
黒崎貞治君	黒田武定君	五島慶太君
後藤宇太郎君	近藤安吉君	佐土原勳君
眞田秀吉君	清水熊雄君	須山英次郎君
鈴木長治君	鈴木雅次君	田中　孝君
田中　豐君	田村與吉君	高橋嘉一郎君
瀧淵實烈君	瀧山　與君	辰馬鏃藏君
谷口三郎君	當山道三君	那波光雄君
中村謙一君	中村孫一君	永井松次郎君
永江　篤君	丹羽鋤彥君	西尾銈次郎君
西尾辰吉君	信澤貞治君	原　全路君
廣瀨孝六郎君	福田武雄君	堀越一三君
堀越清六君	牧野雅樂之亟君	三輪周藏君
名井九介君	山形鐘太郎君	山倉嘉一郎君
吉田德次郎君	米元晋一君	

その他記事

土木學會誌第 28 卷第 2 號を發行成規の手續きを了し會員に配布せり。

入會及轉格會員

正　會　員（入　會）

大久保一男　大塚惠三　岡久近與　奥山角藏　川久保卯吉　木戸熊夫

桑原圭助　小林正幸　小松盛次郎　兒玉孝藏　坂本重規　澤井壯夫
志田源士　宍倉中　新庄政一　關塚政市　田中章　田中節次
田原正夫　高橋勇　地主金治　刀禰良雄　富島惟正　豐川紀雄
中野實　長澤忠郎　長谷川鎗次　原清貞　半場清九郎　本多潤一
松尾正二　日野義一　水出村次　水木孝三　森井傑操　山谷一夫
外 56 名は次號に登載

准會員（入會）

青木秀夫　青木利一　青柳甚男　赤川誠　明槻順三　荒田寛一
新井欣三　井上愛二　伊東政雄　伊藤德次郎　伊藤博巳　伊原岩造
猪飼寅平　飯田良三　石井薫　石川善治　石田源吉　市川亭助
市野治作　今井敏郎　岩附忠宣　岩間一郎　宇賀神淳　內村關雄
梅澤政治　小野田仲三郎　大友光雄　大場憲一　岡本俊雅　押田善久彌
賀川信一　狩野篤　狩野哲郎　海磯秋雄　梶谷吉之助　川田重男
木村軍一　木村正逸　北見英男　栗本健之助　劔持勝見　小濱竹治
小林久　佐藤喜一郎　五月女定一　五月女義雄　酒井桑治　鹽尻修
篠原次郎　下森郭郎　下村正雄　神野助七　鈴木春見　鈴木勇二
瀨口嘉造　薗頭衛　田中義夫　多賀稔　高梨光夫　千葉博
土江重雄　戸塚修　豐島政宣　中村尙　中村達也　中村徹夫
中村元弘　西田勉　長谷川巖　萩原文一　畑山富治　林清太
原福次　日吉三友　平尾二郎　平山秀雄　宮川皓司　廣瀨滿壽治
福島正彥　藤澤繁生　藤本都久茂　星泰　堀越常正　松尾剛
松木徹　松崎健太郎　松田一摩　松本正雄　丸山草馬　三船常三
水田信太郎　武藤壽幸　村上興治　森研一　森貞二　矢部大藏
安田善之助　安田武二　山岡國夫　山崎常吉　山下厚　山田規矩雄
鎗水隆　吉原淳一　吉村久治　蓬田新一　若林義雄　鷲頭德太郎
渡部竹男　川上哲雄　沖津俊直　長谷川弘　外 86 名は次號に登載

學生會員（入會）

荒井暐司　石寺和光　石戸勝雄　岩淵利彥　宇田居吾一　遠藤渡
小川善也　小栗保威　尾田大八郎　大島茂　大貫彌　太田文平
岡田好延　奥山壽太郎　桂次郎　川上喜一郎　木內茂　國枝利定
朽見千次郎　小林一郎　鄉古耕造　今野民喜治　佐藤郁夫　佐藤一郎
佐藤良逸　笹野了平　志伯伊織　識名朝光　霜田敏郎　須藤博
菅原善光　杉內雅夫　鈴木章　鈴木喜久雄　鈴木隆雄　鈴木力衛
田中孝一　高田文司　高橋忠志　高橋彥治　高橋博　武田川博信
武井範三郎　趙榮達　中浩一　長井邦夫　新本武雄　邊見昌則
保坂國雄　堀越義一郎　間宮信孝　松浦東　三堀芳雄　柳沼善一郎
吉崎尙武　吉田光弘　米田善三郎　和田壽一　渡邊明

正會員（轉格）

渥美正秋　岡一衛　金谷治一　小林泰菅　明　中田富二
久常準也　安田光二　小野木次郎

土木學會々員數

(昭. 17. 1. 29. 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	賛助會員	合計
2	4 126	5 706	1 541	136	25	11 536

正會員　工學博士宮本武之輔君昭和 16 年 12 月 24 日逝去せられたり　本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員　市來惟義君，樺島答三君，柴山爲次君，鈴木信次君，中村一造君，柳井靜夫君の訃報に接す　本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員　小川賢吉君，金子　溫君，藤田藤吉君の訃報に接す　本會は恭しく哀悼の意を表す

學生會員　岡田共之君の訃報に接す　本會は恭しく哀悼の意を表す

就　任　の　辭

會長　草　間　偉

今回揣らずも，會員各位の御推薦により，權威ある土木學會の會長の榮職を汚すことに相成りましたことは，私の無上の光榮とするところであります。

我が土木學會は創立以來既に 27 年，其間斯界の權威者が相繼いで會長に就任せられ多年御熱心なる御盡力の結果，今や會員 11 000 有餘に及び，盟邦滿洲國に於ても本會の分身たる滿洲土木學會が出來，且つ昨年は北支に於ても華北支部が設立せられ，會員の數に於ても將又學會構成の地域に於ても，顯著なる發達進歩を遂げ，今日の隆昌を見るに至りましたことは，誠に御同慶に堪へない次第であります。

昨年 12 月 8 日大東亞戰爭勃發以來，御稜威の下，忠勇無比なる陸海勇士の御奮鬪により，連戰連勝，緒戰に於て既に大東亞並に太平洋を制壓するに至りましたことは，眞に私共の感謝感激措く能はざるところで御座います。

斯くて今や傲岸不遜なる米，英の至らざる無き妨害を排除し大東亞新秩序の建設は着々として其巨歩を進め，大東亞共榮圏に屬す可き廣大なる地域は，日に日に我が勢力下に歸しつゝあります。猶此上にも長期に亙り强大を誇る敵を叩きつけ，新附諸國の住民を心服せしむるには，我が國防力を愈〻擴充し，經濟力の充實發展を最も肝要とすることは申すまでもありません。而して之が目的達成の爲には，先づ此の廣汎なる地域内の國土計畫を樹立し，交通運輸の便を圖り，利水衞生の施設を整備し，産業及資源開發の途を講じなければなりません。從て吾々土木技術者の活動を俟つもの極て大なりと信ずるのでありまして，本會の使命は益〻其重大性を加ふるに至りました。此の未曾有の重大時局に當りまして，至つて未熟無能なる私が會長に就任致しましたので，果して克く此の重責を擔任し得るや否や，私は心配に堪へませんが，微力ながら誠心誠意，最善の力を致す覺悟であります。何卒役員並に會員各位に於かれましても，御國の爲と御考へになりまして，絶大なる御援助と御鞭韃を賜はらんことを心から御願する次第であります。

會　　告

昭和 16 年度事業報告並に決算報告

昭和 16 年度事業報告

理事　谷口三郎　　同　吉田德次郎
同　黑田武定　　同　青木楠男
同　稻葉權兵衛　　同　廣瀨孝六郎
同　堀越一三　　同　岩崎瑩吉
同　富永正義

昭和 16 年度事業の概要を下記の通り報告す。

1. 會　　合

昭和 16 年 2 月 17 日午後 5 時より東京市麴町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く。出席者 943 名（委任狀共）にして會長中村謙一君議長席に着き昭和 15 年度事業報告並に決算報告及役員選擧の結果を報告し，次で土木學會定款及規則の變更並に特定期間中入會金免除の件を附議し全會一致を以て原案の通り可決確定，續いて前會長野村龍太郎，田邊朔郎，古川阪次郎の 3 君を土木學會名譽會員に推擧したき旨を諮り全會一致を以て之を可決し，引續き昭和 15 年度優秀論文（別記）に對し土木賞牌の贈呈を行ひ終つて中村會長の講演「東京下關間新幹線鐵道に就て」ありたり。

前記以外本年度に於ける諸會合は理事會 25 回，常議員會 14 回，支部長會議 1 回，年次學術講演會 1 回，通俗講演及映畫會 2 回，土木學會文化映畫委員會 5 回，防空土木委員會（幹事會共）25 回，防空土木施設促進委員會 6 回，對爆調査委員會 10 回，會誌編輯委員會 12 回，抄錄員會 12 回，土木學會コンクリート調査委員會 40 回，杭の支持力公式調査委員會 1 回，水理公式調査委員會 19 回，昭和 14 年旱害調査委員會 1 回，鋼材寸法單純化協議會 1 回，土木學會用語調査常置委員會 1 回，防空談話會 2 回，防空土木緊急施設促進懇談會（各地方）12 回，晩餐會 1 回，午餐會 5 回等なり。

2. 役員選擧並に理事選任及部長就任

昭和 16 年 2 月 5 日定款第 22 條に依り會長中村謙一君，副會長谷口三郎君，常議員稻葉通彥君，岡田實君，倉田玄二君，春藤眞三君，鈴木長治君，瀨尾達也君，百武定一君，松本伊之吉君，山本亨君，和田重辰君，任期滿了並に常議員 4 名增員に就き定款第 18 條，第 21 條，第 41 條及規則第 15 條に依り正會員の投票を以て選擧を行ひ當選したる役員氏名下記の如し。

會長	谷口三郎君			
副會長	黑田武定君			
常議員	青木楠男君	小林紫朗君	佐藤忠三郎君	今井周君
	堀越一三君	酒井勇君	大石勇君	櫻井英記君
	岩崎瑩吉君	澤勝藏君		
（增員）	成瀨勝武君	森豐吉君	野坂相如君	池野敏夫君

昭和 16 年 2 月 19 日定款第 19 條に依り常議員會に於て理事 6 名の選擧を行ひ當選したる理事氏名下記の如し。

理　事　青木楠男君　稲葉權兵衛君　廣瀬孝六郎君　堀越一三君
　　岩崎瑩吉君　富永正義君

昭和 16 年 2 月 19 日規則第 23 條に依り選任せられたる各部々長氏名下記の如し。

總務部長　青木楠男君　　經理部長　稲葉權兵衛君
編輯部長　廣瀬孝六郎君　　調査部長　堀越一三君
法制部長　岩崎瑩吉君　　東亞部長　富永正義君

3. 委員會設置並に委員依囑及委員會經過

(1) 委員會設置及委員依囑

昭和 16 年 1 月 13 日防空土木委員會委員長及委員に下記諸君を依囑せり。

委員長　辰馬鎌藏君
委　員　石川榮耀君　石塚久展君　磯谷道一君　今井周君
　　今井哲君　岡田實君　金子源一郎君　河口協介君
　　菊池明君　黑田靜夫君　小林紫朗君　佐田昌夫君
　　春藤眞三君　末森猛雄君　鈴木雅次君　高木敏雄君
　　高橋嘉一郎君　高橋三郎君　沼田政矩君　野口寅之助君
　　藤井眞透君　町田保君　水谷當起君　目黑清雄君
　　森田三郎君　山崎匡輔君　吉田直君

昭和 16 年 1 月 27 日防空土木委員會委員に岩崎富久君，阿部一郎君，目黑雄平君を依囑せり。

昭和 16 年 1 月 27 日日本工學會編輯委員に廣瀬孝六郎君を選出依囑せり。

昭和 16 年 2 月 10 日防空土木委員會委員並に特別委員長及特別委員に下記諸君を依囑せり。

委　員　高井信一君
特別委員長(横濱地方)　三輪周藏君
特別委員(　同　)　阿部清紀君　大岡大三君　大林勇治君
　　大村四郎君　木村芳人君　小島達太郎君
　　下村猛君　高田廣君　野坂相如君
　　廣長良一君　藤田弘直君　宮崎正夫君
　　山田啓助君　事務幹事　淺野英君
特別委員長(廣島地方)　佐土原勵君
特別委員(　同　)　稲葉愿君　大島六七男君　岡田信次君
　　工藤久夫君　佐分利三雄君　長崎敏晉君
　　服部保君　三上昭君

昭和 16 年 2 月 24 日防空土木委員會委員に下記諸君を依囑せり。

委　員　青山秀雄君　安藤新六君　井上隆根君　糸川一郎君
　　今井四郎君　岩澤忠恭君　小川德三君　小宅習吉君

大岡禮三君　太田尾廣治君　奥田敎朝君　櫻部　保君
久保　讓君　小收孟夫君　齋藤卯之吉君　櫻井英記君
澤　勝藏君　淨法寺朝美君　杉戸　清君　田中茂美君
瀧尾達也君　中津海愼二君　二宮錠治君　信澤貞治君
藤森謙一君　松井達夫君　松田全弘君　三浦　貢君
山岡包郎君　横田周平君　吉岡計之助君

事務幹事　廣瀨可一君

特別委員(横濱地方)　菊池潤三君　坂本信雄君　澤　勝藏君
末松　榮君　濱本齋肅君

特別委員(廣島地方)　荒川龍雄君　石田昌平君　遠藤忠夫君
城谷　淳君　椙山常治君　中島貞一郎君
永田　肇君　橋本孝之君　山口德兵衛君

特別委員長(新潟地方)　蒲　孚君

特別委員(　同　)　阿部謙夫君　淺見　洋君　井越　晉君
飯島一郎君　神谷儀明君　古賀清藏君
酒井英男君　白石鐵藏君　高橋健吾君
知久清之助君　廣石一匡君　藤田宗光君
船越春雄君　三上房吉君　光藤康明君
南　武男君　安井與三八君　山田三郎君

昭和 16 年 2 月 24 日日本工學會理事に青木楠男君，常議員に稻葉權兵衛君を選出依囑せり。

昭和 16 年 2 月 24 日會誌編輯委員會委員長及委員に下記諸君を依囑せり。

委員長　廣瀨孝六郎君

委　員　安藝皎一君　今井四郎君　岡　巖一君　岡崎三吉君
近藤鍵武君　友永和夫君　樋浦大三君　藤野義男君
藤森謙一君　最上武雄君　吉田朝次郎君

昭和 16 年 3 月 17 日防空土木委員會委員に下記諸君を依囑せり。

委　員　青山泰晴君　穴澤藤作君　小倉宏三君　高橋猛雄君
永瀨　肇君　細田貫一君　松下尙人君　山本　亨君

昭和 16 年 4 月 5 日全科學技術團體聯合會本會代表委員和田重辰君辭任に依り後任に青木楠男君を選出依囑せり。

昭和 16 年 4 月 21 日海外文獻抄錄員に下記諸君を依囑せり。

抄錄員　一本保夫君　岩井重久君　內田一郎君　岡　正義君
河合秀夫君　倉田宗章君　佐藤清一君　瀨尾五一君
田中淑造君　竹內坤雄君　谷本勉之助君　西畑勇夫君
新田　亮君　新妻幸雄君　野口勇二郎君　野田和郎君
野中八郎君　原　正路君　日賢幸雄君　平川朋之君

廣瀬可一君　廣田一郎君　逸見正則君　堀　武男君
村　幸雄君　吉岡英文君

昭和 16 年 5 月 12 日海外文獻抄錄員に下記諸君を依囑せり。

抄錄員　市浦　繁君　小倉宏三君　尾崎　登君　片平信貴君
川村滿雄君　河北正治君　篠原　清君　山内一郎君

昭和 16 年 6 月 9 日防空土木施設促進委員會を設置し委員長及委員に下記諸君を依囑せり。

委員長　辰馬鎌藏君

委　員　青木楠男君　稻葉權兵衛君　石塚久展君　今井　周君
岩崎富久君　岡部二郎君　金子源一郎君　黑田武定君
笹森　巽君　春藤眞三君　淨法寺朝美君　末森猛雄君
目黑雄平君　吉田德次郎君　吉田　直君

昭和 16 年 7 月 9 日全日本科學技術團體聯合會標準用語整備委員會本會委員に福田武雄君を選出依囑せり。

昭和 16 年 7 月 9 日日本機械學會水量測定規格制定委員會本會委員草間偉君辭任に依り後任に本間仁君を選出依囑せり。

昭和 16 年 8 月 4 日會誌編輯委員會委員今井四郎君應召に依り後任に淺井政治君を依囑せり。

昭和 16 年 8 月 20 日對爆調査委員會を設置し，委員長に吉田德次郎君を依囑せり。

昭和 16 年 9 月 8 日對爆調査委員會委員に下記諸君を依囑せり。

委　員　青木楠男君　奥田教朝君　佐田昌夫君　齋藤卯之吉君
淨法寺朝美君　友永和夫君　本間　仁君　町田　保君
最上武雄君

昭和 16 年 9 月 29 日對爆調査委員會委員に石塚久展君，森茂君を依囑せり。

昭和 16 年 10 月 27 日會誌編輯委員會委員藤野義男君辭任に依り後任に天埜良吉君を依囑せり。

昭和 16 年 11 月 24 日土木學會コンクリート調査委員會委員に下記諸君を依囑せり。

委　員　大林勇治君　川村滿雄君　田中　孝君　高野　務君
中村政男君

昭和 16 年 12 月 8 日對爆調査委員會委員に釘宮磐君を依囑せり。

(2) 委員會の經過

土木學會文化映畫委員會　土木技術の紹介普及並に土木技術が文化進展に重要なる點を一般に認識せしむる目的の下に關係各方面と連絡を圖り映畫作製の指導，記錄映畫又は文化映畫の製作並上映等の事業を行ひつゝあり。

時局對策委員會　設立以來時局に順應して各種事業に關し引續き攻究中なり。

外人功績調査委員會　設立以來外人の遺功を調査し漸く脱稿不日「本邦土木界に盡せし外人」として發刊すべく目下印刷中なり。

防空土木委員會　本委員會に於ては緊迫せる國際情勢に鑑み國土防空の具體的實施方策を攻究することゝし其の調査研究に當りては關係地方に同樣委員會を設け特に緊急を要し整備期間を凡そ 3 ヶ月以内と豫定せらるゝもの並に防空上絶對必要と認めらるゝものは其の工期の如何に拘らず採擇して其の施策を檢討し昭和 16 年 5 月之が具體的成案を得るに至れり。

防空土木施設促進委員會　防空土木委員會に於て成案を得たる防空緊急施策の措置に就き審議し關係大臣に對して緊急防空施設を速かに實施せられん事を建議し併せて帝都其他の調査地域に於ける當路に對して案の說明と共に施設促進を要請せり。

會誌編輯委員會　專ら土木學會誌の編輯に關し審議し傍ら會誌內容の改善に就き研究をなしつゝあり。

土木學會コンクリート調査委員會　鐵筋コンクリート示方書並に同解說の全般に亙る改訂に就き調査研究の結果昭和 15 年 3 月完成を見るに至りたるを以て更に無筋コンクリート標準示方書を制定すべく之を一般構造物堰堤，鋪裝の 3 部門に分ちて調査研究を進め一般構造物に對しては成案を得て汎く會員の意見を徵することゝし其他の部門に對しては銳意其の立案に努力しつゝあり。

鋼橋示方書調査委員會　鋼鐵道橋標準示方書に就き調査研究をなし其の立案を發表するに至れり。

杭の支持力公式調査委員會　引續き杭の支持力に關する調査研究をなしつゝあり。

土木學會用語調査常置委員會　昭和 11 年 12 月英和工學辭典の改訂に着手し以來約 5 ヶ年間銳意調査研究を重ねたる結果昭和 16 年 6 月上梓を見るに至れり。

關東及關西地方水害調査委員會　關東，東海及關西地方の風水害に就き調査を爲し漸く完了を見るに至れり。

昭和 14 年旱害調査委員會　昭和 14 年近畿，中國，四國，北九州，朝鮮及關東州地方に起りたる旱害の調査を爲し災害の狀況，原因，對策等に就き正確なる記錄を作成し將來の參考資料となすべく調査に努力しつゝあり。

水理公式調査委員會　從來の公式を檢討整備して其の使用に當り適正を期するため公式名稱，用語記號の統一等に就き調査研究を進めつゝあり。

地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會　地下工事に於ける鋼材の節約に關し調査中なり。

東亞調査委員會及東亞連絡委員會　本委員會の事業は時局對策委員會と關聯して進行中なり。

4. 支部長及副支部長就任

昭和 16 年 1 月 27 日土木學會關西支部長任期滿了に就き改選の結果橋本敬之君當選就任せり。

昭和 16 年 6 月 24 日土木學會華北支部設置に伴ふ第 1 回支部長に三浦七郎君，副支部長に郡新一郎君當選就任せり。

昭和 16 年 8 月 4 日土木學會中國四國支部設置に伴ふ第 1 回支部長に佐土原勳君當選就任せり。

昭和 16 年 8 月 20 日土木學會東北支部長轉出に就き後任選擧の結果四田敏夫君當選就任せり。

昭和 16 年 12 月 8 日土木學會中部支部長任期滿了に就き改選の結果田淵壽郎君當選就任せり。

昭和 16 年 12 月 15 日土木學會西部支部長任期滿了に就き改選の結果金森誠之君當選就任せり。

5. 建 議 事 項

昭和 16 年 8 月 4 日內閣總理大臣並に內務，大藏，鐵道，遞信，商工，農林，厚生，陸軍，海軍各大臣，企畫院總裁，參謀總長，軍令部總長及防衛總司令官に對し樞要地域に於ける緊急防空施設を速かに實施せられんことを防空土木緊急施策を添へ建議せり。

6. 土木賞牌基金寄附

昭和 16 年 12 月 22 日故正會員物部長穗君遺族より土木賞牌基金として金 600 圓寄附ありたり。

7. 會誌其の他の發行

昭和 16 年度中土木學會誌第 27 卷第 1 號より第 12 號まで並に昭和 15 年鐵筋コンクリート標準示方書，同

解說を發行せり。

8. 登記並に申請事項

昭和 16 年 2 月 17 日通常總會に於ける理事（會長, 副會長）の改選及資產の總額を金 204 410.83 圓と變更の件は同年 3 月 14 日其の登記を了せり。

昭和 16 年 2 月 20 日常議員會に於ける理事 6 名改選の件は同年 3 月 14 日其の登記を了せり。

昭和 16 年 2 月 17 日通常總會に於て可決確定したる定款及規則變更の件を同年 2 月 28 日文部大臣に申請し同年 3 月 26 日認可せられたり。

9. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第 26 卷第 11 號に登載せる正會員工學博士吉田德次郎君著「最高强度コンクリートの製造方法に就いて」と題する論文に對し昭和 15 年度土木賞牌を贈呈せり。

10. 年次學術講演會

昭和 16 年 10 月 31 日, 11 月 1 日の兩日第 3 回年次學術講演會を福岡市九州帝國大學工學部に於て開催, 發表論文 91 題に及び極めて盛大に擧行せられたり。

11. 防空土木緊急施設促進懇談會

昭和 16 年 6 月 20 日帝國ホテルに企畫院當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 11 日帝國ホテルに東京府及東京市當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 15 日ニューグランドホテルに神奈川縣, 横濱市, 川崎市當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せりり。

昭和 16 年 7 月 16 ～18 日內務省土木局, 同計畫局, 防衞總司令部及東部軍司令部を訪問し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 21 日名古屋市觀光ホテルに愛知縣, 名古屋市, 名古屋鐵道局及名古屋師團當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 22 日京都府廳に於て京都府, 京都市當路と防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 23 日大阪市新大阪ホテルに大阪府, 大阪市, 大阪鐵道局及中部軍司令部當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 24 日神戸市オリエンタルホテルに於て兵庫縣及神戸市當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 26 日福岡市博多ホテルに北九州地方縣, 市, 鐵道關係及西部軍司令部當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 7 月 28 日廣島市精養軒に廣島縣, 廣島, 呉兩市及軍關係當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 8 月 12 日新潟市イタリヤ軒に新潟縣, 新潟市, 新潟鐵道局及軍關係を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

昭和 16 年 9 月 11 日札幌市グランドホテルに北海道廳, 各市, 鐵道, 遞信及北部軍司令部當路を招待し防空土木緊急施設の促進に關し懇談せり。

12. 支部事業の概要

昭和 16 年度中に於ける支部事業の概要次の如し。

關西支部に於ける諸會合は昭和 16 年 1 月 24 日中央電氣倶樂部に於て第 14 回支部總會を開き昭和 15 年度事業及決算報告をなし次で役員の選擧を執行せり。

前記の外役員會 7 回，關西支部大會 1 回，巡回講演及映畫會 1 回，座談會 3 回，土木工學研究會 1 回，視察見學 1 回，委員會 43 回なり。

東北支部に於ける諸會合は昭和 16 年 5 月 3,4 日東山向瀧に於て第 4 回支部總會を開き昭和 15 年度事業及決算報告をなし次で講演會並に視察見學を行ひたり。

前記の外役員會 3 回，幹事會 6 回，講演會 5 回，視察見學 1 回なり。

北海道支部に於ける諸會合は昭和 16 年 1 月 25 日札幌鐵道集會所に於て第 4 回支部總會を開き昭和 15 年度事業及決算報告をなし次で講演及映畫會を催したり。

前記の外役員會 3 回，幹事會 9 回，講演會 1 回，委員會（幹事會共）7 回，講習會 1 回，見學會 1 回なり。

中部支部に於ける諸會合は支部總會の外役員會 4 回，岐阜部會 1 回，視察見學 2 回，通俗講演會 1 回，座談會 1 回，委員會 3 回，調査會 4 回なり。

西部支部に於ける諸會合は昭和 16 年 12 月 7 日博多ホテルに於て第 3 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告をなし次で支部長當選報告及役員の改選を行ひ終つて講演及映畫會を催したり。

前記の外役員會 5 回，幹事會 6 回，講演會 1 回，委員會及幹事會 3 回なり。

朝鮮支部に於ける諸會合は昭和 16 年 10 月 11 日朝鮮遞信事業會館に於て第 2 回支部總會を開き昭和 15 年度事業及決算報告をなし次で支部長並に役員の改選を行ひ終つて講演及映畫會を催したり。

前記の外役員會 4 回，幹事會 3 回なり。

華北支部に於ける諸會合は昭和 16 年 7 月 2 日北京飯店に於て支部發會式を擧行し終つて和山參謀，平井喜久松君，高西敬義君の記念講演あり引續き祝賀晩餐會を催したり。

前記の外幹事會 7 回，役員會 2 回なり。

中國四國支部に於ける諸會合は昭和 16 年 10 月 13 日廣島市商工會議所に於て支部發會式を擧行し次で第 1 回總會を開き役員依屬其他を報告し終つて大島六七男君，吉田德次郎君，伊集院久君の講演並に映畫會を備したり。

前記の外幹事會 3 回なり。

13. 會　員　數

昭和 16 年度に於ける入會者は正會員 503 名（內准會員より轉格したるもの 339 名），准會員 917 名（內學生會員より轉格したるもの 483 名），學生會員 605 名，特別會員 35 名，賛助會員 1 名，合計 2 061 名にして死亡者は正會員 31 名，准會員 42 名，學生會員 6 名，賛助會員 2 名合計 81 名，退會者は正會員 27 名，准會員73 名，學生會員 13 名，特別會員 6 名，合計 119 名なり。

而して昭和 16 年 12 月末日に於ける現在數は名譽會員 2 名，正會員 4 036 名，准會員 5 533 名，學生會員 1 484 名，特別會員 136 名，賛助會員 25 名，合計 11 216 名なり。

昭和16年度決算（自昭和16年1月1日 至昭和16年12月31日）

理事 谷口三郎　同 吉田德次郎
同 黑田武定　同 青木楠男
同 稻葉權兵衛　同 廣瀨孝六郎
同 堀越一三　同 岩崎鎣吉
同 富永正義

普通經費

收入之部

	円
1. 會費	72 064.82
1. 雜收入	8 415.15
1. 組入金	1 685.15
合計	82 165.12

支出之部

	円
1. 事務費	31 392.43
1. 會誌費	39 826.39
1. 會議費	1 492.05
1. 負擔金	389.25
1. 交付金	9 065.00
合計	82 165.12

特別經費

收入之部

	円
1. 會費	22 179.06
1. 雜收入	3 588.55
1. 組入金	14 192.73
合計	39 960.34

支出之部

	円
1. 事業費	26 144.38
1. 交付金	8 454.10
1. 諸費	5 120.45
1. 調査及研究費	241.41
合計	39 960.34

事業資金

收入之部

	円
1. 前年度繰越金	42 121.29
1. 利子收入	959.03
1. 印稅收入	1 394.00
1. 滿洲土木學會負擔金	7 526.60
合計	52 000.92

支出之部

	円
1. 普通經費へ組入	1 685.15
1. 特別經費へ組入	14 192.73
1. 翌年度へ繰越金	36 123.04
合計	52 000.92

基金

收入之部

	円
1. 前年度繰越金	146 454.80
1. 組入指定利子	287.09
1. 土木賞牌基金受入	600.00
1. 一時納付會費受入	720.00
合計	148 061.89

支出之部

	円
1. 翌年度へ繰越金	148 061.89

基金內譯

		円			円
故古市公威，沖野忠雄兩博士記念基金		21 883.43	故坂本雅雄君記念基金		543.82
故白石直治博士	〃	19 456.81	故川上浩二郎博士	〃	1 007.27
故山崎鉉次郎博士	〃	2 061.18	故中山秀三郎博士	〃	2 033.33
故原田貞介博士	〃	4 027.68	岡崎文吉博士	〃	1 091.67
故廣井勇博士	〃	9 500.56	故野口誠君	〃	1 000.00
故小川梅三郎博士	〃	1 357.11	故廣井勇博士土木賞牌基金		628.75
故富田保一郎博士	〃	676.20	故古市公威博士	〃	515.78
故石黑五十二博士	〃	8 674.76	故來島良亮君	〃	511.83
故近藤虎五郎博士	〃	6 443.01	故中山秀三郎博士	〃	508.33
故中島鋭治博士	〃	3 939.31	故物部長穗博士	〃	600.00
故阪田貞明君	〃	1 513.96	積立基金	〃	32 493.00
故岡崎芳樹博士	〃	2 407.33	關西支部維持基金	〃	22 000.00
故太田圓三君	〃	3 186.77	合　計		148 061.89

資產負債對照表　（昭和 16 年 12 月 31 日現在）

資產之部

	円
1. 有價證券	96 950.00
1. 信託預金	39 500.00
1. 定期預金	10 000.00
1. 郵便貯金	1 895.57
1. 振替貯金	14 013.14
1. 特別當座預金	14 129.33
1. 當座預金	218.38
1. 圖書及備品	4 408.99
1. 滿洲土木學會負擔金	7 526.60
1. 未收入金	10 848.32
1. 現金	188.01
合　計	199 678.34

負債之部

	円
1. 基金	148 061.89
1. 事業資金	36 123.04
1. 圖書，備品及未收入金繰越金	15 257.31
1. 假受金	236.10
合　計	199 678.34

財產目錄

資產負債對照表資產之部と同一に付省略す。

會　　告

會費拂込に就て

3 月は第 1 期分會費の納入期でありますから，御手數ながら振替貯金又は便宜の方法にて御拂込を願ひます。

尙支那其他外國に在住せらるゝ方は日華爲替，國際爲替，軍事爲替又は銀行經由等に依り御送金を願ひます。

昭和 17 年度第 1 期分會費（1 月～6 月）

正　會　員	6.00 圓
准　會　員	4.50 圓
學生會員	3.00 圓

會　　告

昭和 17 年度土木學會役員氏名報告

會長	工學博士	草間偉君		(新任)
副會長	工學士	黑田武定君		(留任)
同	工學博士	鈴木雅次君		(新任)
常議員	工學博士	青木楠男君		(留任)
同	工學士	岩崎瑩吉君		(留任)
同	工學士	內山實君		(新任)
同	工學士	小野美造君		(新任)
同	工學士	大石勇君		(留任)
同	工學士	大槻勝雄君		(新任)
同	工學士	岡崎三吉君		(新任)
同	工學士	小林紫朗君		(留任)
同	工學士	齋藤四郎君		(新任)
同	工學士	酒井勇君		(留任)
同	工學士	櫻井英記君		(留任)
同	工學士	澤勝藏君		(留任)
同	工學士	鈴木清一君		(新任)
同	工學士	田中孝君		(新任)
同	工學士	瀧淵實烈君		(新任)
同	工學士	當山道三君		(新任)
同	工學士	野坂相如君		(留任)
同	工學士	信澤貞治君		(新任)
同	工學博士	福田武雄君		(新任)
同	工學博士	堀越一三君		(留任)
同	工學士	松村孫治君		(新任)
同		森豐吉君		(留任)
同	工學士	山倉嘉一郎君		(新任)
同	工學士	山下輝夫君		(新任)

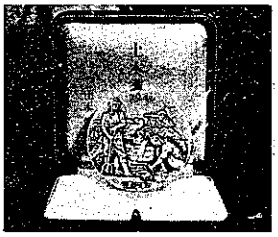
會　　告

昭和 16 年度土木賞牌受賞者報告

土木學會誌第 27 卷第 11 號所載

玉石交り砂礫層の河川に設けたる取水堰基礎止水壁潛函工事の一例

正會員　内　海　清　温君



土　木　賞　牌